

お耳のたんじょう日

大木 浩二



健友館

お耳のたんじょう日

第一章 この世…

ゆうくん誕生

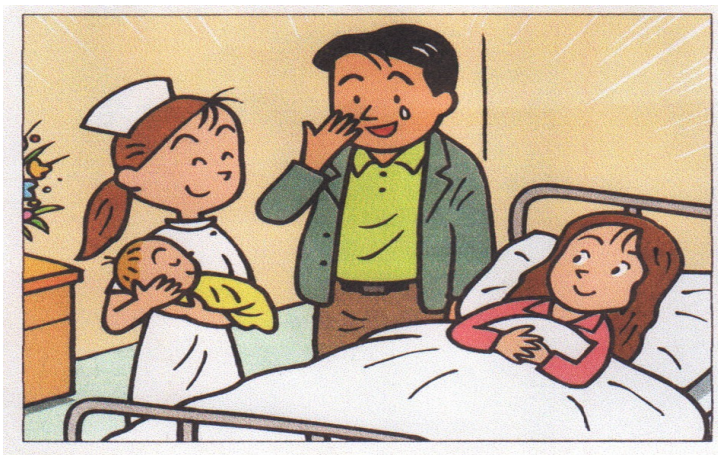
四月八日…。それは、お釈迦様のご生誕された日。
その有難くも同じ日の夜、午後十時四十八分、ゆうくんは誕生しました。
看護婦さんに抱かれ、お父さんの前に現れた赤ん坊は、それはそれは、
玉のように大きな男の子でした。

「とっても元気な、大きな男の子ですよ！」
看護婦さんの優しい言葉に、
お父さんは感激と安堵感から思わず泣いてしまったようです。
(あらあら。このお父さん、これから先が思いやられるわ)
看護婦さんは少しあきれながらも、
新米のお父さんを満面の笑みで見守っています。

ゆうくんのホントの名前は裕一朗。
ゆうくんのお父さんが、裕福になってほしいという希望をこめて、
そして『朗』という字にこだわりをもってつけた名前です。

「朗らかに、明るく、たくましく育て！」

お父さんの想いそのもでした。



オナラの威力

ゆうくんが生まれてしばらくたってから、
田舎のおじいちゃん、おばあちゃんを呼んでお宮参りに行った時のこと。
神主さんの祝詞の途中、社がきしむかのように、
「ブーッ」「ブーッ」
という、大きな大きなオナラの音が二発響き渡りました。

音の主は、おばあちゃんの腕にしっかりと抱かれ、
グウグウいびきをかいてぐっすりと眠るゆうくんその人です。
おばあちゃんはもとより、おじいちゃんも、お父さんも、お母さんも、
ぐっと笑いをこらえてゆうくんの健やかな成長をお祈りしました。

気になる耳…

生後八ヶ月。
夜泣きがひどく、お母さんをとっても悩ませたゆうくんですが、
ハイハイやつかまり立ちも上手になって、
やんちゃ盛りをむかえているようでした。

そんな頃、お母さんには気がかりなことがありました。
「ゆうちゃーん」と呼んでも、おもちゃの音を鳴らしてみても、
振り向かないことが多いのです。

まさか、聞こえてないとか…。
お母さんは少し不安になってきました。
いやあー、うちの子に限って…。
いちまつの胸騒ぎを感じながらも、お母さんとゆうくんは、
それから約半年の月日を夢のように過ごしました。